

2019

Annual Report



バヌアツ ペンテコスト島



Japan Dental Mission

NPO法人ジャパン デンタル ミッション

Contents

代表理事挨拶	1
活動地紹介	2
海外活動報告	4
バヌアツ共和国ペンテコスト島	4
フィリピン共和国カオハガン島	12
学術報告	17
国内活動報告	18
国際理解教育～バヌアツ学習を通して～	19
海外活動参加者感想文	24
2020年度 海外活動予定	33
ジャパン デンタル ミッションについて	34
協力者名簿	35
役員紹介	36



代表理事挨拶

代表理事 沢田 宗久

1983年からJDMの活動を始めて以来37年目になりますが、今回新型コロナウイルス感染症と言う未曾有な事態の影響でバヌアツ共和国とフィリピン・カオハガン島での活動が余儀なく中止となったことが大変残念であります。

昨年はペンテコスト島での活動を行って2年目になり、以前は教会の中の手狭な環境での診療でしたが、昨年の7月には村長と島民が話し合い、診療所と宿舎を別棟で建てて頂きました。お陰様で活動がし易くなり、より多くの患者様を治療することが出来ました。その時の活動に日本のTV番組『こんな所に日本人』という番組のディレクターに同行取材



して頂きました。YouTubeの『バヌアツへ行こう』2019年9月号にJDMの活動が紹介されていますので、検索して観て下さい。

又、昨年のペンテコスト島では長年の懸案事項である保健省とJDMの調印準備が整い、公衆衛生部長レン・タリボンダ氏のオフィスにてMOU（覚書）に調印を行いました。これでJDMはペンテコスト島で、歯科医療分野にて技術支援、衛生教育などで人的・物資支援協力をするというMOU（覚書）を基に新たな活動を始めます。

今年7月に行く予定であったバヌアツの首都にあるセントラル病院へは、ドクターズ救急車を寄贈する計画を進めておりました。この救急車は大阪府八尾市立消防署で活躍していた救急車を譲り受け、内装を改良し、船便で運ぶ計画でしたが世界的パンデミックにより頓挫しています。

一方フィリピン・カオハガン島では、昨年11月で延べ55回の活動となりました。

昨年11月には現地のJDM選任スタッフ・トッペル君を含め17名で活動しました。北海道・東京・千葉・神奈川・大阪・兵庫・奈良・愛媛・広島と各地から、メンバー全員が奉仕と言う共通の目的意識を持ってカオハガン島に集結しました。毎日のミーティングではそれぞれ活発な意見が飛び交い、それぞれの専門分野を活かして活動を行いました。

参加者はリピーターも多く、毎回治療の流れもスムーズに行われ、島民の主訴に添ったより良い診療を目指せるようになりました。

現在JDMでは海外活動の目途が立っていませんが、バヌアツは今年4月6日頃にサイクロン「ハロルド」に襲われました。5年前の「パム」に匹敵する猛威を振りました。それに対して我々はいつでも国交が回復した場合に物資を送れる準備をしているところです。海外での歯科医療奉仕活動はできなくても、それに向けての準備は皆さまのご協力の元に積み重ねています。

1日も早く新型コロナが終息して我々の活動が再開できますことを心から願っています。

活動地紹介

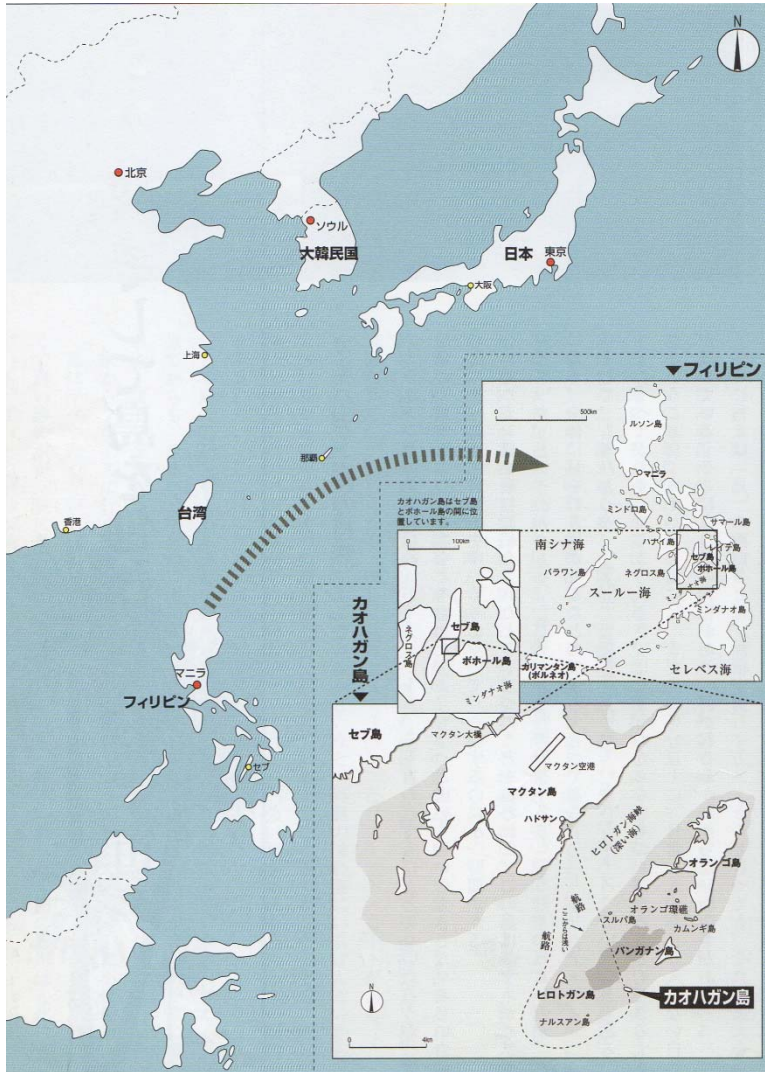


バヌアツ共和国

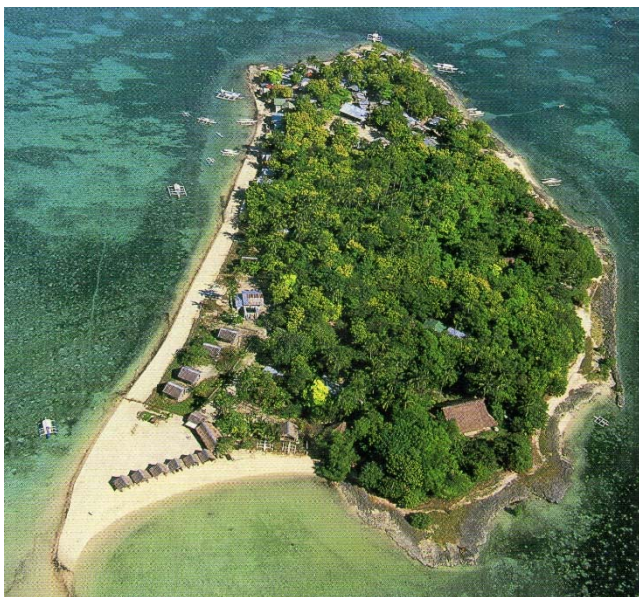


紹介：約 83 の島々から成り立つ
人口：約 29 万人
首都：ポートヴィラ（エファテ島）
言語：ビシュラマ語、英語、仏語
通貨単位：バツ（1 バツ＝約 1 円）
宗教：ほとんどがキリスト教
平均寿命：70 歳
生産物：コプラ（ヤシ）、牛肉
活動地：ペンテコスト島

フィリピン共和国



紹介：7, 109の島々から成り立つ
 人口：約1億100万人
 カオハガン島の人口は約650名
 首都：マニラ（ルソン島）
 言語：フィリピン語、英語、ビサヤ語
 通貨単位：フィリピンペソ（1ペソ＝約2.5円）
 宗教：ほとんどがキリスト教
 平均寿命：71歳
 生産物：バナナ
 活動地：カオハガン島



海外活動報告

バヌアツ共和国ペンテコスト島

場所 バヌアツ共和国・ペンテコスト島

期間 2019年7月11日～7月19日（前乗り組10日～19日）

参加メンバー

（左から）Lillirose Dan, (H : Vila Central Hospital member of Vanuatu G.), 鳴田さつ紀 (H) ,
Luke Lachlan Michael (V), 大沼華子 (TS) , 宮内知彦(Dr), 伊藤玲(Dr), 沢田宗久(Dr),
Russell Olul, (Dental therapist : Vila Central Hospital member of Vanuatu G.), 関根 淳(Dr),
小西あゆみ (H)

※(Dr)歯科医師, (H) 歯科衛生士, (TS)歯科技工士専門学生, (V)ボランティア

前乗り組活動内容



2019.7.11. 小雨(バヌアツ首都ポートビラ)



10日前乗り組メンバー(沢田代表、関根、伊藤、宮内、Michel、大沼、鳴田)の7名が羽田空港で合流後、JDM本部からの活動物資、医療器具など9点の荷物を受け取り、無事にチェックイン。ニューカレドニア1泊で経由し、約24時間かかりポートビラに到着。現地保健省のJenny氏、Russell氏、Lillirose氏が空港で出迎えて頂き、ホテルまで心良く送迎して頂いた。



16時にメラネシアンホテルに到着。街中を散策して食事後、長時間のフライトで皆疲れていたため明日に備え即就寝。

現地保健省との会議参加組（沢田代表、関根）

夕食までの間、JDMで購入した発電機の使用方法のレクチャーを受けに、ホームセンターへ。延長コード、ブルーシートなどを購入。

12日 曇のち晴れ



午前中は、日本の支援で設立された首都ポートビラの総合病院VCH(Villa Central Hospital)の見学。初参加のメンバーも初めて首都ポートビラの歯科の現状を目にして、日本の歯科医療とバヌアツの歯科医療事情の違いや問題を感じることができた。診療ユニット3台、Dr3~4名で約30人前後/日を診療しているとのこと。主な診療内容は、抜歯、充填処置、義歯製作などである。診療機材に限界があり他の治療メニューを増やすことは困難である様子。遠方から来られる患者も多く抜歯によって痛みだけでも改善してあげることができることでも大きな意味があると現地Drは言う。

午後には、Dh小西が合流し、活動メンバー全員が揃い、夕食時にそれぞれの活動にける思いや参加の動機などを語り合い、合わせて沢田代表の活動にける熱き思いを聞き、チームの団結力を増すことができた。また、バヌアツのJICA所長からも海外ボランティア活動やJICAの活動に関するお話や貴重なご意見を頂くことができた。明日早朝からのペンテコスト島への出発準備、活動機材の荷物梱包の準備をして明日に備え就寝。

現地保健省との会議参加組（沢田代表、関根）

10時から保健省でミーティング。

保健省公衆衛生部長レン・タリボンダ氏、ヘルスプロモーション、WHOアドバイザー、ミリアム・エーベル氏、保健省パブリックヘルスヘルスプロモーション課、課長JJローリー氏、学校計画コーディネーター、歯科衛生士リリーローズ・ダン氏、事業コーディネーター、歯科セラピストラッセル・オルル氏、保健省歯科公衆衛生担当歯科医師ジェニー・スティーブン氏

※診療場所について

2017年の沢田代表視察では学校の1部屋を使用することになっていたが、2018年はコミュニティの教会での治療となりました。2018年に診療スペースをコミュニティが新築することになっていたが、その通り実現し、教会の裏に多目的施設が既に完成しているとの事。

※JDMの診療器具保管場所について

現在安全に器具を保管出来る場所が存在しない。パンギコミュニティの保健センターは既に助産施設として稼働しており保管倉庫はない。

2018年はラッセル氏の姉の自宅を使用したのが、今年は親戚が帰ってくるので使えないとのこと。パンギコミュニティで改めて相談することとなりました。

※学校検診について

サウスペンテコストには対象学校が8校存在するとの事。今回は1校（パンギ小学校）検診、国際文化交流、歯科衛生教育、1校（ラングスクス小学校）衛生教育のみの予定だが、できれば2校とも検診してほしいとのリクエストを受けました。将来的には8校検診したいとの事。

※政府の事業として

学校検診の結果

診療所での診療内容、（何人来たか、抜歯の数、義歯の数、スケーリングの数、充填の数など）を後で報告してほしい。

※MOU（モロラムオブアンダスタンディング）各省庁共通の調印フォーマット

担当者がワードのフォーマットを編集できない、承認会議に持っていけない、日本語が混じってる、などと1年以上放置されてきました。しかし、中央病院には2年おきに中国人の歯科医師を常駐させる、というMOUを中国政府と既に調印しています。なぜJDMとの調印は1年以上かかるのか？公衆衛生部長レン・タリボンダ氏と直談判し、我々がペンテコストでの活動中にMOUの調印の準備を済ませ、帰ってきたらその日に調印できる様にする、という約束をしました。

12時30分から保健省にて会議のメンバーと昼食。

MOU以外は和やかな会議だったため和気あいあいとしたランチとなりました。

13時30分から中央病院歯科視察

中央病院では資材不足により、次回の入札までにグラスアイオノマーセメント、フジナイン、人工歯が不足しています。またPCV（Presbyterian Church of Vanuatu）で行なっている学校検診プログラムでピンセット20個、ミラー20個プローブ20個、乳歯抜歯鉗子2セットが不足しているとの事で寄付の要請を受けました。

※小噺 14時から

10年以上前、まだJDMがメリディアンホテルに宿泊していた頃、ホテルの一角でバヌアツの名もなきアーティストが自分で彫刻小物を販売していました。感動した沢田先生が、どの様に作っているのか道具を見せてもらおうと、古びた小さなボロボロの彫刻刀を見せてくれました。あまりに壊れそうだったので、来年日本から彫刻刀を持ってくる事を約束し、翌年ホテルに持っていくと、もうそのアーティストの姿はありませんでした。ホテルに尋ねると、居場所を教えてくれ、彫刻刀を渡すことができました。日本人の約束を守る心を証明することができました。それから約10年経った今年、ふとメラネシアンホテル、サウスパシフィックツ



アーズのお土産コーナーを見ると見覚えのある彫刻作品が。そう、日本製の彫刻刀で腕を上げ、バヌアツを代表するアーティストに成長したトニー・ブルース氏のナタンゴラカービング作品だった。メラネシアンホテルマネージャーの土山さんに聞くと、有名なアーティストで、結婚指輪も彫ってくれたそう。沢田先生の話をする、すぐ本人を呼び、10年ぶりの再会となりました。10年前の10本セットの彫刻刀は最後の1本となって、折れても溶接して使われていました。

しかし他の国の彫刻刀ではではダメだ、ということで、頑に買い替えなかったそう。今回また彫刻刀を日本から持ってくる約束をして、別れたのでした。

15時

JICA事務所表敬訪問。以前からJICAとJDMの直接契約の事業はないものの、学校検診等で青年協力隊と協力関係になり、バヌアツ保健省がJDMの活動に協力隊のメンバーを派遣するなど、毎年の様に関わっています。今回の所長は公衆衛生に理解があり、現在ペンテコストには協力隊の派遣は無いが、また何かあればお互い協力することとなりました。

夕食はJICA所長を招き、メンバー全員での食事会となりました。

本隊活動内容

13日 晴れ



早朝よりペンテコスト島に向けて出発。荷物の超過が 150kg あり減らすことができないと飛行中止となることを伝えられ、やむなく追加チャーター便を利用し全ての荷物を運び 1 時間程でペンテコスト島に到着。

今回の活動には、バヌアツ保健省より昨年も共に活動して頂いた歯科衛生士 Lillirose Dan, Dental セラピスト Russell Olul, が活動のサポートに同行頂き、共に活動することで日本人メンバーのこの活動にかける思いや情熱を肌で感じて頂いて、共に協力し合い感動的な活動をすることができました。TV ディレクターの石原智香さんが我々JDM の活動について取材をして頂きました。（BTV ケーブルテレビで放送予定）石原さんは取材の合間には、率先して我々の活動のサポートもして頂き、寝食も共にして食事のサポートや現地の方々との交流のサポートをして頂き我々JDM のメンバーとして活躍されました。



昨年建設中であった、宿舎が完成していて、シャワー・トイレ・キッチン完備、13 名前後宿泊可能な施設であり、快適に過ごすことができました。また、昨年の診療所スペースは、教会のスペースをお借りして診療していましたが、今回は、教会に隣接したところに診療所として利用できる建物を建築して頂いておりました。水やトイレ、施錠できるドアなど安全に使用できる環境で、我々の持参したジェネレーターもスムーズに起動させることができ診療には十分な広さと快適な環境でありました。

当日は、各自宿泊施設で荷を下ろし、教会で村人からの歓迎セレモニーを受け交流を深めた後に、診療所へ向かい翌日からの診療に向けて準備を開始。



今回も義歯作成などの技工作業もあることから、歯科技工のスペースや診療スペースなどを設置し、機械・器具の動作確認を行いました。バキューム3台機能する予定でしたが、1台のみしか動かず、バキュームを必要な場合には、それぞれシェアしながら使うことにしました。

現地事務局との会議参加組（沢田代表、関根）

JDMの荷物は誰も触れていない、との事だったが、既に診療室に移動してありました。

歓迎セレモニー後のミーティング、学校改善事務局ルル氏とパンギー小学校校長と JDM の医療器具保管場所の相談。学校に JDM の医療器具全てを保管するスペースはないので、今建設中の図書館を延長し、スペースを確保してはどうかと提案あり。しかし予算は止まっており、去年から図書館の建設はストップしている。JDM に延長スペースの分予算を寄付できないか相談ありました。学校としては鉛筆、ノート、タオル、石鹸などが足りていないとの相談がありました。

14日 晴れ 診療1日目



8時30分より全員手分けして、診療準備にとりかかる、早朝より、沢山の島民が教会に集まっていました。受付・抜歯・充填・技工のスペースはそれぞれ十分なスペースをとることができ、新しい診療所として広いスペースと風通しが良いのであまり暑さは感じることなく、それぞれの役割でチームワーク良く、円滑に診療ができました。今回は、チームで自炊することが主になっていたため、日本から調味料を持参し、首都ポートビラから野菜などの食材を用意しました。午前中の調理メンバーが1時間程度前から昼食の準備をして、現地の鶏を捌いて頂いたものを調理して炊き込みご飯にしたり、パスタを作ったりと現地食材をアレンジして日本食をメインに美味しく頂くことができました。

昼食後、診療再開。義歯の作成希望者も多く来院され、技工作業も製作作業にとりかかり、診療環境にも慣れ、スムーズな診療ができました。初日の活動で、緊張はあったものの、それぞれの役割で、みんな充実した活動ができた実感することができました。

15日 晴れ 診療2日目



午前中はパンギー小学校での歯科検診組と診療組に分かれての活動。数年前から活動での課題となっていた「検診用紙の改善」が今回の活動から検診用紙を新規に作成し、バヌアツ保健省と共有できるものとなり、検診を受けた子供達の保護者へより解りやすく検診結果を伝えられるようなものとなりました。

その結果、午後の診療には、多くの治療の必要な子供達が来院してくれました。



現地事務局との会議参加組（沢田代表、関根）

パンギー小学校、学校検診。

口腔衛生教育は今回JDMでは行わず、JDMで配った歯ブラシを利用し、ラッセル氏がペンテコストラングージ（英語や共通語のビシュラマ語ではなく、村の言葉）にて歯磨き方法を説明しました。

八尾市立竹濠小学校の生徒たちが描いた日本の絵をプレゼント、翌日までにペンテコスト島やバヌアツの絵を子供たちが描いて提出する事となりました。

16日 晴れ 診療3日目



午前中はラングスク小学校での歯科検診組と診療組で分かれて活動。午後からは、全員で診療再開。最終診療日であり、村人たちにも

十分に周知され、義歯作成希望の方も多く、可能な限り対応し、その他の診療部門でも昨年以上の村人からのニーズと期待がメンバーにも伝わり、みんな最後まで懸命に取り組むことができました。

現地事務局との会議参加組（沢田代表、関根）

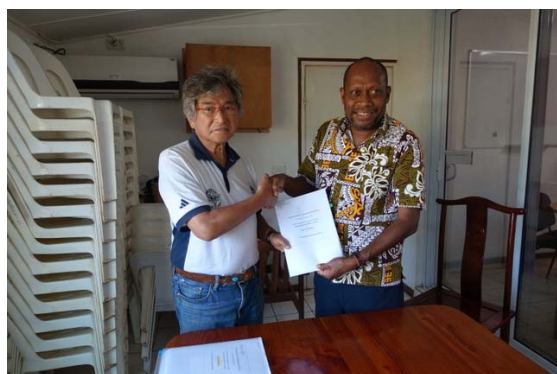


ラングスクス小学校検診。パンギーからは車で約40分の距離があり、診療所が混んでいたため、Dr.沢田、Dr.関根、DHリリー、セラピストラッセルの4人での訪問となりました。歯ブラシ、タオル、クレヨン、画用紙などのドネーションセレモニーの後、フランス語コミュニティのためラッセル氏のパンギランゲージによる口腔衛生教育となりました。検診班は少人数であったが、政府からスクリーニングの要請はプライオリティーが高いため生徒全員の検診を行うことができました。また、ラングスクス小学校でもバヌアツの絵を描いてもらうことになりました。

午後診療後、再度JDM診療器具保管場所の相談。パンギー保健センターより、現在施設内ではスペース無いが、施設を延長する形で倉庫を制作できるとの事。しかし予算がないので、この場合もJDMに寄付の要請がありました。見積もりをメールしてくる予定。

17日 晴れ ペンテコスト島 パンギー村出発

早朝に持ち帰る機材や各自荷物をまとめて、ほぼ定刻に首都ポートビラに戻り、15時頃に無事にホテルへ到着。メンバーみんなで食事会をして無事に活動終了できたことを喜び、久しぶりの湯船に浸かり安堵しました。翌早朝には、ニューカレドニア経由で日本へむけて出発のため就寝。



現地保健省との会議参加組（沢田代表、関根）

15時、ポートビラに戻りすぐに保健省へ。MOUの調印準備が整ったとの事。レン・タリボンダ氏のオフィスにて調印。永きに渡る交渉末調印に至り皆感動。今後3年間今回のMOUを基にJDMの活動が行われる。36年に渡るJDMの活動への感謝の言葉が述べられ、ペンテコスト島でまた新しい歴史が始まる・・・との事で集合写真撮影。長年JDMの担当をしていたJJローリー氏は年末に引退となり、今後はジェニー氏が窓口となる。



総括・活動リーダー報告

雨にうたれることなく天候に恵まれ、最終日までスタッフ全員健康に、不調になる者も出ず元気に活動できました。今回は、ペンテコスト島のパンギー村を拠点に2回目の活動となりました。空港から40分ほどの場所で、300人ほどの集落。昨年の宿舎は、パンギー村唯一の民宿を利用し、徒歩5分ほどの場所にある教会のスペースをお借りして診療させて頂いておりましたが、今回は、私たちJDMの活動メンバーのために宿泊施設と診療所を新規に建設して頂き、快適に活動することができました。今年は、事前に村人に我々の活動を告知して頂いていたので、活動初日から治療希望の患者さんが多く来院されました。学校検診はパンギー小学校・ラングスク小学校で281人の子供たちの検診を行い、治療の必要な子供には親の承諾を得た上で、治療を行うことができました。パンギー村での歯科活動は2回目であるため、昨年の経験から多くの工夫をし、水の確保や電源供給、作業上の準備もスムーズで、村の人々のご協力もあり、円滑にミッションを実行することができました。

今回の活動から検診用紙を新規に作成し、バヌアツ保健省と共有できるものとなり、検診を受けた子供達の保護者へより解りやすく検診結果を伝えられるようなものとなりました。その結果、バヌアツ保健省と情報共有しやすく、治療の必要性の有無や保護者の同意を得やすい状況となりました。

また、歯科治療を希望する患者さんにおいても、写真撮影のご協力や歯科治療に対する同意を得られるような

カルテを新製し、実行できたことにより活動する歯科医療従事者にとって、安心して活動できる環境に一步前進しました。

そして、バヌアツ保健省とのやりとりで尽力を尽くして頂いた関根先生においては、永きに渡ってのJDM本会からの交渉を引き継ぎ、現地での会議交渉を続けたことによって調印に至り今後3年間今回のMOUを基にJDMの活動が行われることとなりました。バヌアツ保健省とJDM本会との協力体制の確立によって、我々活動者にとっても安心して活動できるものとなり嬉しく思う次第です。

より良い活動ができるように代表を含め、メンバー間で同じ釜の飯を食べながら、海外歯科医療ボランティア活動について熱く語り合いました。

今回は、昨年同様に活動メンバーの参加人数にも恵まれましたが、バヌアツ共和国という遠方の地での活動には、費用と長期の休暇が必要です。そえゆえ、医療従事者の方々にとっては、日頃の診療があり容易に参加できるものではないと思います。今後も我々JDMのバヌアツ共和国での活動を継続するためには、何よりも人財が大切であります。より多くの人々に私たちJDMの活動を知って頂き、共に活動してもらえる仲間が増えてくれることを願うばかりです。36年間バヌアツ共和国での歯科医療ボランティア活動を続けていられるのは、人々との繋がりがあってのものです。今後とも私たちJDMの活動に暖かいご支援のほど宜しくお願い致します。

今回のチームメンバーと共に、来年度の活動に向けてより充実した活動と村人の皆さんに喜ばれるように努めることを誓い、無事にメンバー全員が健康で安全に帰国の途に着きました。

JDM 伊藤 玲

2019.7. ペンテコスト島 治療・検診結果

	14 日	15 日	16 日	合計
抜歯	36	41	22	99 本
CR	8	6	15	29 本
SC	13	17	5	35 人
TBI	7	10	60	77 人
クリーニング	0	3	62	65 人
チェックアップ	4	3	23	69 人
咬合調整	1	0	0	1 人
義歯印象 上	5	1	2	8 床
義歯印象 下	1	2	1	4 床
義歯装着 上	1	4	4	9 床
義歯装着 下	0	0	4	4 床
義歯調整	0	0	1	1 人
グセ充填	0	0	4	4 本
患者数	55	42	87	184 人

歯科検診		
7 月 15 日	パンギースクール	153 人
7 月 16 日	ラングスクスクール	128 人
合計		281 人

フィリピン共和国カオハガン島

期間 2019 年 11 月 2 日～11 月 6 日

参加メンバー

(上段左から) 大西富子(H) 西田望(H) 倉橋朋子(H) 嶋村寿美江(H) 中谷知子(Dr)長谷川玲子(V)
(中段左から) 大森愛裕(Dr) 高山めぐみ(H) シャ ダイアナ(Dr) 河合李美(H) 丸山麻耶(H)
(下段左から) 野間貴裕(Dr) 梅安秀樹(Dr) 瀬野耕司(Dr) 沢田宗久(Dr) 志水宏光(Dr)



活動内容

11 月 2 日

19 時セブ空港に、北海道・東京・千葉・神奈川・大阪・兵庫・奈良・愛媛・広島、各地から飛行機の遅延もなく無事に到着、合流。入国時も市長からの書類もあり、無事に通過。

トッペルさんやエマさんが迎えに来てくれていた。大型タクシー・ボートを乗り継ぎカオハガン島に到着。

夕食をとり、簡単なミーティングをして就寝。



11月3日

初参加のメンバーが多いなか、リピーターと共に診療器械のセッティングなどを行いながら、順次診療を始めていく。日曜日なので、一般診療のみで、午前午後ともにのんびりとした診療。DRが8人と多い中、各自仕事を分担して抜歯・充填・クリーニングを行う。いつもなら、診療を待つ行列ができるのだが、後になってわかったことだが、11月1日はフィリピンの祝日で1日から3日の連休で旅行など出かけている人が多かったようで、パンダノン島やパガンアン島の来島が少なかったようです。



手のあいているメンバーは、診療所に遊びに来た子供たちに、歯ブラシを渡して歯磨き練習をした。

11月4日

小学校に歯ブラシ・タオルなど、沢田代表・D 梅安がドネーションをする。



DH 河合・Dダイアナ・DH鳴村・DH丸山・DH高山が保健指導、歯ブラシ指導をする。

小学校からも、JDMへ 子供たちが歌やダンスを披露してくれた。

他のメンバーは診療所で一般診療の治療を行った。



歯ブラシ指導が終わった小学生は、学年ごとに診療所に移動して歯科検診を行い、抜歯やシーラントを。小学校からもどったメンバーも加わり、一般診療と小学校検診・小学校診療を分担して行う。低学年のむし歯が多かったが、高学年になるほどむし歯の本数は少なく感じ、奥歯に過去に行ったシーラントが残っているのを見ると、保存できていることにうれしくなった。

フッ素洗口も6月から週1で高学年のみ(小学校の判断で)行っていると報告あり。

11月5日

診療最終日 診療をしながら、徐々に撤収作業・在庫確認を行う。午前中に撤収・掃除。



昼食後、自由時間 シュノーケルをしたり、ココナッツオイル作り体験をしたり各自2時間ほどゆったりと過ごす。



3時頃からJDMと島民の文化交流の運動会をポントグ(砂浜)で行う。今回はV長谷川が新しい種目を考案してくれた。毎回子供たちが楽しみにしている、綱引きや玉いれ・リレー以外に、ぐるぐるバットしてからのリレーや、ビーチフラッグ、騎馬戦など。騎馬戦ができるのが、前日からミーティングで心配していたが、カオハガン島の子供たちの運動能力はやはり高く、難なく騎馬を組むことができ、大きな笑顔であふれていた。



11月6日

3時ごろ島を出発、出発前まで降っていた雨も止み、ボートもアクシデントもなく無事に空港に到着。
各自岐路に着く。

今回カオハガン島以外の来島患者が少なかったが、今まで行列を見て遠慮していたカオハガンの島民が治療に来てくれていた。以前追跡調査していた男の子が、青年になってクリーニングに来てくれた。彼は小学校のときからむし歯の少ないグループだったが、今もむし歯のないきれいなお口を見たとき、本当にうれしかった。いつか、カオハガンの島民の治療がクリーニングのみばかりになるように。

‘06

A1



‘10

A1



治療結果

	1 1 / 3	1 1 / 4	1 1 / 5	合計
抜歯	43 本	119 本	37 本	199 本
C R	15 本	11 本	19 本	45 本
シーラント		8 2 本	2 本	84 本
S C	19 人	13 人	5 人	37 人
T B I	1 人	1 人		2 人
チェックアップ	1 人	32 人		33 人
D リペア	1 人	4 人		5 人
切開		1 人		1 人
抜糸			1 人	1 人
受診者数	45 人	132 人	30 人	207 人

島別受診者	
カオハガン	52人
カオハガンスクール	83人
パガンアン	37人
カブルアン	28人
マリゴンドン	1人
バスダコ	1人
マリバゴ	1人
タボック	2人
セブ	2人
合計	207人

リーダー総括

今回もマンパワーに恵まれ、器械の故障などのトラブルはあったものの診療は順調に進み、満足のいく活動が出来たと思います。

北海道からベテランの梅安先生始め 3 人に参加があり、大変貴重なアドバイスを頂きました。今後の活動に活かされと思います。

運動会を担当した長谷川さんは騎馬戦などの新しい種目を準備しており、子供達も大喜びでした。

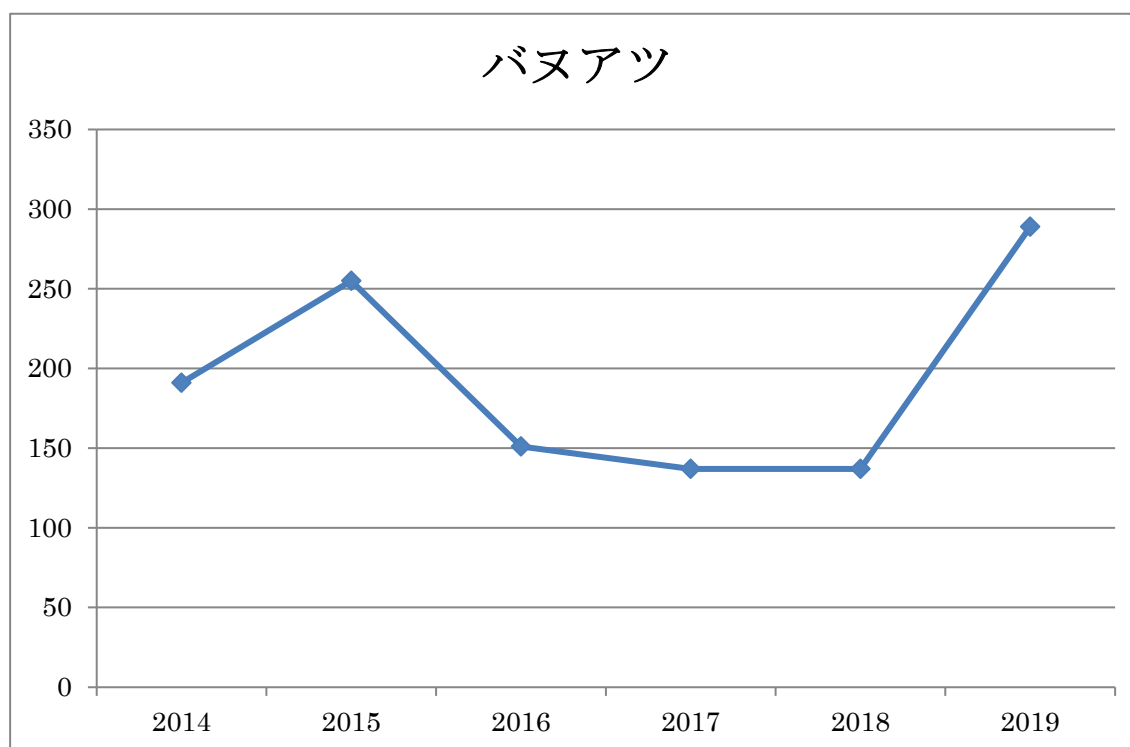
カオハガンハウスのスタッフの協力も得て、今年の 6 月から小学校の高学年のみであります、フッ素洗口が始まりました。成果が現れるのが楽しみです。

今回参加したメンバーを始め、この活動を支えてくれた島民、カオハガンハウスのスタッフ、日本のスタッフ、全ての方に感謝致します。有り難う御座いました。

又、島でお会いしましょう。

瀬野

バヌアツ



データ	2014	2015	2016	2017	2018	2019
合計 / DMF	191	255	151	137	137	289
合計 / D	187	246	142	123	137	284
合計 / M	2	8	7	12	0	1
合計 / F	2	1	2	2	0	4
検査人数	440	424	444	404	270	302
DMFT	0.4	0.6	0.3	0.3	0.5	1

バヌアツ共和国の DMFT は 1.2 (1994 年) で、う蝕罹患率が低いです。口腔衛生教育の普及によるものではなく、後発開発途上国に指定されており、平均的な所得が低いため甘味を手に入れにくい状態と考えられます。一方で 2003 年あたりから観光業が活発となり経済発展が進んで所得が向上してきています。

JDM は 2017 年まで 10 数年タンナ島にて活動していました。タンナ島の小学校の DMFT は 0.3 を維持しており、JDM の長年の活動の成果であると思われます。2018 年よりペンテコスト島での活動を開始しました。ペンテコスト島の DMFT はタンナ島に比べて高いと考えられます。今後、より積極的な歯科衛生教育、ブラッシング指導、食生活などの啓蒙活動を行なっていく必要があると考えます

フィリピン共和国については、新型コロナウイルスによるパンデミックのため 2020 年 3 月の活動が中止となりましたので割愛いたします。

富田 真仁

国内活動報告

日 付	内 容
2019年 4月19日(金)	名古屋ロータリークラブにおいて 「南太平洋での歯科医療奉仕活動と青少年育成について」と題して卓話 担当：沢田
6月12日(水)	八尾市立竹渚小学校 5年生の3時間目、6年生の4時間目 授業 「国際理解を深める為の授業」 担当：沢田・栗山
8月 5日(月)	大阪船場ロータリークラブにおいて卓話 「バヌアツ帰国報告」 担当：沢田
11月18日(月)	大阪船場ロータリークラブにおいて卓話 「バリ島帰国報告」JDMと船場ロータリーとの活動報告 担当：沢田・岡本
11月21日(木)	八尾市立竹渚小学校 5年生3時間目、6年生4時間目 授業 「バヌアツ共和国での活動について、YouTube において紹介された動画を元に授業を行なう。 担当：沢田・栗山 ソルベ（カナダ人）
12月20日(金)	大阪中央区開平小学校 職場見学（学校授業の一環） 生徒7名と先生が澤田歯科に来院。 診療内容と「ボランティア活動について」のお話しをする。 担当：沢田
2020年 1月12日(日)	奈良県歯科技工士の新年会にて JDMメンバー募集の為の講話 担当：河内・大西
1月28日(火)	豊中ロータリークラブにおいて 「職業奉仕について」と題して歯科医療奉仕活動について卓話 担当：沢田
2月20日(木)	豊中北ロータリークラブにおいて 「南太平洋での歯科医療奉仕活動と青少年育成」について卓話 担当：沢田
2月26日(水)	八尾市立竹渚小学校 5年生3時間目、6年生4時間目 授業 カナダ人のソルベ（画家）さんと合同で授業を行なう。 担当：沢田・栗山・ソルベ

国際理解教育～バヌアツ学習を通して～

八尾市立竹渚小学校

教諭 木村 久美子

教諭 岡本 恭平

1. はじめに

八尾市立竹渚小学校では、「広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ること」を目標とした国際理解教育を行っている。その中で、学期に1度、沢田先生・栗山先生・岩崎先生に協力していただき「バヌアツ学習」を行っている。また、令和元年度から、色鉛筆絵画で海洋環境の保護を訴えているソルベイ・カリーナ・ノードウォール先生も一緒に来校していただき、環境教育も併せて行っている。

学習内容については、児童の発達段階に応じた内容、また児童のニーズにあった内容となるよう、事前に打ち合わせを行っている。授業は、活動の様子を静止画や動画に編集して紹介したり、実際に活動されている先生方の具体的な話を取り入れたり、児童の興味・関心を高める工夫がされている。JDMの活動内容や報告を聞くだけではなく、「人のために」、「地球環境のために」自分の人生をかけて活動する大先輩から、生命の尊さ、感謝の念、伝統や文化の尊重、国や郷土を愛することなど、たくさんのことを学び・感じ取って欲しいと願っている。

2. 学習について

<第1回> 6月12日

学習内容

- ・ 沢田先生の紹介
- ・ JDMの活動の目的や歴史、活動について
- ・ バヌアツやフィリピンの文化や人々の暮らしや様子 など
- ・ ソルベイ先生の紹介
- ・ 地球の環境汚染・破壊、絶滅危惧種について

事前授業として、バヌアツ共和国やフィリピン共和国について、それぞれの国の場所や言語・食生活・特産品などの文化を調べ、クラス内でのグループ発表を行った。

第1回目の授業では、5年生は初めてJDMの活動を知り、現地の文化や生活習慣などを教えてもらった。特に、現地の生活の様子と日本の生活の様子との違いに驚いていた。6年生は、バヌアツ学習2年目を迎え、5年生のときよりも更に真剣に沢田先生の話に耳を傾け、積極的に質問をする姿が見られた。

今回から講師に加わって下さった、ソルベイ先生は、色鉛筆で海の生き物やハワイの風景を題材に絵を描いているアーティストで、いくつかの作品を見せて頂いた。熱帯魚や珊瑚、アザラシやウミガメなどの絶滅が危惧されている生き物、海洋汚染やその背景についてお話して下さった。

第1回目の学習を終えて、児童から「今年度もフィリピンやバヌアツの子ども達との文化交流をしたい。」という声があがり、自分達で描いた絵をプレゼントすることにした。



《制作の様子》

どんな風景にしようか、
悩みながらも、楽しそうに絵を描く子ども達。

日本の風景をテーマに描いた絵を、沢田先生の夏季バヌアツ派遣の際に現地の小学校へ持って行ってもらった。



<第2回> 11月21日

学習内容

- ・ JDMの活動のドキュメンタリー番組の動画
- ・ 夏季バヌアツ派遣での話
- ・ バヌアツの小学校（2校）からの贈り物の紹介・寄贈

第2回目の授業では、バヌアツのペンテコスト島での活動を行ったドキュメンタリー番組の動画を見せて頂いた。

まず、活動に係る費用や運び込む荷物の膨大さに、児童は驚いていた。専用の機材や薬品が揃っていない状況の中で治療をする為、持ち運びのできる機材を準備し、日本から持っていく。また、不足している物資の寄付も行うため、多額の費用がかかる。JDMの活動は、たくさんの機材や物資を持って、飛行機を乗り継いで現地に向かう。その様子を見て、「お金も、時間も、体力も使って、そこまでして。すごすぎる。」とつぶやいていた。

活動しているスタッフが歯科医師だけではないことも、児童にとっては刺激を受けたようだ。歯科技工士が義歯の制作を昼夜問わず行っていること、歯科衛生士が小学校でブラッシング指導している様子、学生ボランティアが活動している様子・・・全てのスタッフが、現地の人々のために一生懸命取り組んでいることが、児童の心にしっかりと伝わった。

一番盛り上がったのは、番組内で自分達が描いた絵を実際に沢田先生が現地の小学生へプレゼントしている様子が紹介されたことだった。「あれ、〇〇が描いた絵や！」など興奮した様子で動画を見ている児童や、「自分の描いた絵が、バヌアツにあるってすごいことや。」と感動している児童の姿が見られた。そして、バヌアツの子ども達からも、絵のプレゼントがあった。竹淵小学校の子ども達へのお礼として、2校の小学校の児童が描いてくれた。火山やきれいな海、バンジージャンプの櫓など現地の風景を描いた絵、日本とは違った配色（太陽が黄色で描かれている...他）の絵を見て、驚いたり、新しく気付いたりした感想をクラスで交流することができた。沢田先生やJDMの活動のおかげでバヌアツの子ども達とつながることができた。



《楽しい給食時間・沢田先生と》



《バナアツの子ども達からのプレゼントを手に》



《楽しい給食時間・栗山先生と》



竹淵小学校には、給食の後、5分間の『歯みがきタイム』がある。

<第3回> 2月26日

学習内容

- ・なぜ歯科医師になろうと思ったのか
- ・なぜボランティアをするのか
- ・自然界のバランスと環境汚染について
- ・モビール作り

第3回目の授業は、2部構成で行った。

第1部は沢田先生による授業で、6年生が卒業に向けて将来の夢について考える機会が多いということもあり、歯科医師になったきっかけや、ボランティア活動を始めたきっかけについて語っていただいた。

沢田先生は、「私は、生かされた命である。」「何度も死にかけの経験をした。」「誰かのために生きる。」「その命を社会の中でどう使っていくか」と、これまでの体験を織り交ぜて話をして下さいました。その中で、ボランティア活動を行う上で大切な「か・き・く・け・こ」の話があった。「感謝」、「気配り」、「工夫」、「健康」、「行動力」。それぞれ1つずつ丁寧に話して下さいった内容は、児童だけでなく、私自身の心にも響いた。

今すぐでなくていい。いつか、バナアツ学習で学んだことを「こういうことだったんだ。」と気付いてくれたらいいと思う。そして、よりよい大人に、社会に貢献できる人材に育って欲しいと願っている。



《沢田先生の授業の様子》



《ソルベイ先生の授業の様子》

第2部のソルベイ先生の授業では、自然環境のバランスの大切さや環境汚染が生態系を破壊してしまうということを、「1ミリでも場所がずれてしまうと、バランスが崩れて傾いてしまう。」というモビールの性質になぞらえて、話をいただいた。その後に、絶滅危惧種のトキ、シマフクロウ、タンチョウをモチーフにしたモバイル作りを行った。

児童は、ソルベイ先生の絵の繊細さに感心し、「すごい細かく描いている！」「きれいなトキやわ。タンチョウもきれい！」「シマフクロウは、顔がかわいい。」と口々につぶやき、楽しそうに取り組んでいた。完成したモバイルは、鳥の「巣にいる姿」、「木に止まっている姿」、「羽ばたいている姿」の各パーツが、ゆらゆらバランスを取りながら動く様子が、まるで生きているかのように見えた。

3. 学習後の児童の感想（一部抜粋）

◎2年間、沢田先生の話聞いてきて、自分のためよりも人のために行動できることがすごいと思いました。先生の「生かされし我が人生」と言う言葉が心に残っています。活動するためにたくさんお金がかかるし、自分の時間も使って、何でボランティア活動するのかなって思っていたけど、沢田先生の話聞いて理由が分かったし、誰かのために行動するってことが大切なんだと思いました。先生が歯医者さんを目指したように、私も看護師を目指して頑張りたいと思います。（6年）

◎自分がかいた絵が、番組の中で写っていてビックリしました。しかも、バヌアツの小学生からお返しの絵をもらって、とても嬉しかったです。自分はボランティアをしたことがあるけど、次は、「どうするのがいいのか。」と相手のことを考えて活動したいと思います。（6年）

◎バヌアツでは、歯が無い人が多くてびっくりしました。虫歯になったら、抜くしかない聞いて、怖いし痛そうだなと思いました。だから、入れ歯が欲しい人が多いと思います。歯科技工士のたまごの人が、入れ歯を作ったけどちょっとうまくいなくて、患者さんのために何回も直しているところが、あきらめずに頑張っていてすごいと思いました。（6年）

◎バヌアツという国をよく知らなかったなので、この授業で知ることができて良かったです。ぼくもいつか行って

みたいと思いました。(5年)

◎歯の治療ができない人がいるのを知って、びっくりしました。私もバヌアツの人達のために、ものを送るなど、寄付とか何かしてあげたいなと思いました。(5年)

◎マイクロプラスチックで海が汚れたり、エサと間違えて食べてしまったりして、海の生き物が死んでしまうことを学校の授業で勉強したけど、ソルベイさんが話をしてくれて、思っているよりももっと大変な問題なんだなと思った。私ができることは少ないけど、これからの地球のためにできることを見つけて頑張りたいです。(6年)

4. 終わりに

バヌアツ学習を通して、目標としていた「広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ること」ができた。多くの児童は、文化交流を重ねることで、「相手を知ること」や「自分達のことを伝えること」が大切だということに気付くことができた。引き続き、バヌアツ学習を続けていきたいと思う。

竹淵小学校では、友だちの「よさ」や「ちがい」を認め合い、ともに成長していこうというあたたかい雰囲気が育ってきている。今後も、教職員が一丸となって、児童一人ひとりの自己肯定感を高め、心を耕していくような教育活動を行っていきたい。



令和元年 6月 竹淵小学校・6年生

海外活動参加者感想文

マイケル瑠久（ボランティア）

私は文系大学の学生で今まで一切歯科の活動に関わったことがなかったのですが、今回の活動に参加させていただきました。初めて訪れる国で経験したことのない活動をお手伝いさせていただくというのはとても緊張することでしたが、周りの素晴らしいメンバーのみなさんのおかげで充実した活動を行うことができました。

JDM とは別の団体で妹とアフリカのウガンダの難民キャンプで歯磨き指導の授業を行うプロジェクトを立ち上げており、今回の活動では歯科のプロの方たちがどのように海外で活動をしているのか見学する意味もあって参加させていただきました。素人目に見ても、とても多い患者さんを診ながら、隙を見つけて「瑠久こっち来てこれ見な。」と声をかけて、たくさん活動を見学させていただきました。診療時間以外でも、海外で活動することの意義やボランティアを行う上で大切なことなどたくさんお話を聞くことができ、自分にとってとても有意義な時間でした。

また現地の人のやさしさにとても感動しました。みんな JDM のスタッフに対して信頼を持っており、現地に到着した時から待っていましたと言わんばかりに歓迎をしてくださって、本当に現地で愛されている活動なのだなと実感することができました。私が一番感動したのは、初日の午前中に診察を受けた現地の子供が 2 日目以降も毎日診療所に来てくれて、たくさん友達を診療所に誘ってくれたことです。現地の子どもにもこの診療所で治療を受けることが大切なことであることが伝わっていることがわかり、熱意をもって活動をする、それはたとえ言語の通じない相手であっても理解してもらえるのだなと感じました。

今回の活動を通して自分のプロジェクトを見直す点をたくさん見つけることができた上にこれから自分が様々なボランティアに参加するときにどのような心構えで臨んだらいいのかということも学ぶことができました。本当に楽しい 10 日間でした。ありがとうございました。



大沼 華子（歯科技工士）



私は歯科技工士養成校に通う学生です。外部講師の先生が授業でこの活動の話をした時にとても興味が湧き、その後、先生に相談し参加させて頂くことになりました。

ボランティアのメンバーはみんな優しくて良い人たちばかりでした。学生である私を暖かく迎え入れ、役割をいただき、毎日楽しく活動できました。

診療中は学校で得た知識を活かし、歯科医師の監督下の元、部分床義歯を作りました。いつもの手元にある使い慣れた道具での作業とは違い、限られた物資や道具、時間での作業は難航しました。ですが、

義歯が出来上がり、いざ患者さんがそれを入れた時、歯科技工士としての喜びを感じることができました。私には英語もフランス語もビスラマ語もわかりませんが、確かに患者さんとありがとうと感謝を伝え合うことができました。義歯を入れ笑った顔はみんなとても素敵でした。

また、私が作業をしているといつのまにか小さな子供たちに囲まれていたことがありました。みんな興味津々に私の手元を見ていて…かと思ったら髪の毛に違和感があったので後ろを見たら私の髪の毛で遊んでいました(笑)

バヌアツ共和国の人にとって黒い真っ直ぐな毛は珍しく面白いようで楽しそうに笑うものだから、しばらくそのままでした。ちょっと仕返しに何人かの頭を撫でましたが、こちらはこちらでフワフワでずっと触ってたくくなるような触り心地で撫でられた子は照れながらもにこっと可愛く笑っていました。

このボランティアを通じて、やりたいことや興味が出たもの、新たな目標などたくさんものを見つけることができました。

1 つ目は英語を勉強すること

2 つ目は学校での勉強以上に義歯の勉強をすること

3 つ目は歯科技工士の国家試験に合格すること

4 つ目はまたバヌアツ共和国に行って作れなかった人の義歯を作ることです。

今回のボランティアでの 1 番の後悔は臼歯部の義歯を作れなかったことです。ものを噛むのにどれだけ重要かを知っていながら作ることができなかったのは本当に悔しかったです。ですので、次に行った時は現地の人がもっと喜ぶ義歯を作りたいです。

宮内 知彦（歯科医師）

この度バヌアツ共和国ペンテコスト島での活動に参加しました。

バヌアツエアーのチケット決済ボタンを押すときは指が震えるほど不安でしたが、実際の活動は毎日が感動と学びに満ちた本当に楽しい充実した時間でした。

今回の経験で強く感じたことが二つあります。

まず一つは“強い想いは必ず伝わる”ということです。

パンギー村に到着すると、JDM のために、と新しい宿舎と診療所が建てられていました。昨年のパンギー村での初めての活動がいかに島民の心に響いたかが、それらを見て感じとれました。宿舎にいたっては島民の家と比べればあり得ないくらい綺麗な造りで、感謝の気持ちの深さに感動させられました。

その気持ちに応え、昨年のチームが築いた信頼関係をより強いものにすべく、こちらもまた緊張感をもって誠実に活動に取り組むことで、またその想いが伝わり、治療後には最高の笑顔を見せてもらって帰っていく。

そんなプラスのエネルギーの循環を目の当たりにしながら過ごした日々は、JDM での活動を通じてしか経験し得ない素晴らしいものでした。

もう一つは“一人一人が確実に同じ方向を向いたチームは強烈な力を発揮する”ということでした。日々歯科医院で診療している身として、“チーム”、“チームワーク”ということ意識しない日はないのですが、今回の活動では私の理想とするチームのかたちがありました。メンバー一人一人が自ら率先して、その時必要な自分に出来る最善の行動を笑顔でとる。



それに必要なのは“島民のために”、“チームのために”という二つの強い気持ちだけで、それさえあればあれだけのチームワークを発揮することができる。

チームとして何かを成すのには言葉など不要でメンバーが高いレベルで同じ方向を向く、ただそれだけで良いということをも身を持って知ることができたのは、今後の人生においても大きな財産となりました。

ペンテコスト島からポートヴィラに戻った翌日の朝、活動していた5日間があまりにも短く感じたと沢田先生に話したところ“夢でも見てたんとちゃうか？”と言われました。

沢田先生は冗談半分でおっしゃっていたと思いますが、帰国しこの文章を書きながら今活動を思い返すと、正に自分にとっては夢のような楽しい日々でした。

今回一度きりで終わることなく、また夢を見に継続して参加していきたいと思います。

活動を終え今思うことを取り留めもなく書きましたが、最後に、今回の活動を通じて出会った全ての方との出会いに心から感謝いたします。

また共に活動した沢田先生、伊藤先生、関根先生、小西さん、鳴田さん、大沼さん、マイケル君、ともかさん、たくさんの感動を本当にありがとうございました。

中谷 知子（歯科医師）



今回のこの活動を終えて...

沢山の想いがありすぎて言葉にするのは容易ではありませんが、本当に沢山の事を学ぶことができました。

参加した理由ですが、私は元々海外でのボランティアに興味があり、せっくなら自分の持っている資格を活かし、歯科医師として何かお手伝いできないかと探していたところ、JDMの活動を見つける事ができ参加いたしました。参加するまでは本当に自分が役に立てるのか、他の参加する方に迷惑をかけないか、いつも働いている日本の診療所とは違う限られた環境の中でどれぐらい動けるのかという不安と同時に、初めて行くカオハガンという所はどのような所で、どのような島の方々が住み、どのような新しい出会いがあるのかと楽しみな思いもありドキドキしていました。

不安で胸がいっぱいのところ、衛生士のトモコさんはマメに連絡をくださり、自分の出来る範囲で楽しみましょうと、言ってくださりとても気が楽になったのを覚えています。

空港で今回活動する参加者の皆さんと合流していざカオハガン島へ。その夜顔合わせをして、澤田先生よりボランティアの“かきくけこ”を教わりました(この言葉はまた後ほど)。そして次の日からいよいよ活動開始です。

フタを開けるとそこは戦場でした。事前にいただいていた資料を熟読しましたが、読むのと実際その現場に行くのは大違い。

当たり前ですが自分で行う治療は自分で初めから最後まで全て自分で行う、全てセルフサービスです。日本の診療室ではユ

ニットですが、ここではただの椅子、ヘッドレストではなくネックピロー、など全てが初体験です。

初日、2 日目の抜歯ではヘーベルをどう使っても簡単に脱臼などせず、ビクとしません。この場で国や人種によって骨の硬さや歯の形態が違うことを学びました。瀬野先生にお世話になりっぱなしでしたが、最後まで丁寧に指導していただき本当に感謝しています。ありがとうございました。

またそんな状態でも何も言わずただ一生懸命口を開けてくださった島の患者さんにも申し訳なく涙が出る思いでした。

途中自分の不甲斐なさに、自信を喪失し正直もう歯科医師を辞めようかと思ったほどです。最終日自信喪失もそのままですが、CR ルームで活動しました。ですが、落ち込んでいる時間はどこにもありません。次から次へと患者さんはいらっしゃいます。このまま後悔だらけで終わりたくない、自分の出来る事を全て出し切って帰りたい、何より自信のない歯科医に診てもらうなんて、患者さんに失礼だと自分を奮い立たせ、今まで生きてきた中で1 番集中したのではないかと思うほど頭と手を使いました。患者さんに笑顔でありがとうと、言われた時は心の底から嬉しかったです。こちらこそ、ありがとうございますと、思いました。ベテランの衛生士のナナコさんにアドバイスしていただき、手伝っていただきながらどうにか終わることができました。冷静で的確なナナコさんがいなければ私はあの時を終えることができなかったと今でも思います。この場を借りて言わせていただきます。本当にありがとうございました。

そして、もう一つ印象的だったのは裸足で走り回る島の子供達の日や笑顔が本当にキラキラしていたことです。例えば土の上に書いた円の上で飛んでみたり、全ての物を遊び道具にしたり、物質的には豊かでなくても心はとても豊かで、物に溢れている私達よりも本当の“幸せ”を知っているのだと思いました。私の知らない世界がまだまだココにあると、それも知る事ができました。

そして運動会では沢山の子供達の笑顔を見る事ができました。運動会のメニューを色々考えてくださったり、肩や腰が凝り固まった私達にストレッチを教えてくださいましたインストラクターのレイコさん、ありがとうございました。

今回は幸い海の中を歩くこともなく、スムーズに移動でき、また天候にも恵まれ、カオハガンハウスでは快適に過ごすことができました。キム兄さんの最期の挨拶、“さようなら”ではなく、“いってらっしゃーい！”。

私は絶対に忘れません。次に戻ったら必ず、“ただいま”と言います。

ナナコさんの言葉： ボランティアは人の為と書いて偽、人の為ではなく自分の為。

人の役に立ちたくて参加したつもりでしたが沢山の方々に出会い、色々な事を教えていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

澤田先生の言葉： ボランティアのかきくけこ。か： 感謝 き：気配り く：工夫 け：健康 こ：行動力 最初はなるほど、位でしたが、終えてみると本当に心に沁みます。今回の活動のみならず今後生きていく上でも大切な言葉となりました。

今回は悔しい思いも沢山しましたが、またいつか参加できたら、その時はセノ先生にも(なるべく)お世話にならず、アユ先生のように1 人で全て最初から最後まで終わられる様に頑張りたいと思います。

今回一緒に活動できたメンバーの皆さま、皆さまと出会えて、数日間でしたが一緒に過ごすことができて嬉しかったです。またいつかお会いできるのを楽しみにしています。

ありがとうございました！！

高山 めぐみ（歯科衛生士）

歯科衛生士の資格を活かして何か役に立つことをしたいと思い続け、ボランティアに興味はありましたがずっと一步を踏み出せずにいました。職場では自分の衛生士としての仕事の在り方に思い悩んでいる時期で、これから自分がどんな衛生士になっていきたいのかを考えている中でふと思い出したのがボランティアでした。自分の持っているスキルで島民の方々の力になればと思うのはもちろんでしたが、歯科の未だ見ぬ世界を見てみたいという気持ちも正直ありました。

実際に現場で口腔内を見ると大人も子供も残根歯ばかりで、本来なら補綴治療で残せる歯も限られた機材と時間では難しく、痛みのために抜歯を希望される方がほとんどでした。歯石は全体にべったりと付き、歯はグラグラ。そして触れると歯が見

えなくなるくらいに多量の出血。周りで楽しそうに駆け回る子供の笑顔からは多数の虫歯が見え、手にはお菓子。日本とはあまりにも違う環境でした。

少しでも何か出来ることをと思い、歯石除去後には TBI をし、子供たちには遊びながらも歯磨きを呼びかけました。言葉も伝わらない中、私の TBI に島民が応えてくれて上手に磨けた時はとても嬉しかったです。

もっともっと歯医者のないこの島で、島民達が辛い思いをしないように歯磨きの方法や予防の大切さを伝えたいと思いました。

島民の口腔内を良くしたいと思う気持ち

ちは JDM の皆さんと同じで、この5日間で皆さんの熱い想いがすごく伝わり日常に埋れてしまっていた衛生士としての情熱を思い出せた気がします。

初めは誰かのためにと想着参加したボランティアでしたが、綺麗な海を見ながらのびのびと暮らす島民達の姿や、子供たちのキラキラした笑顔、そして JDM の皆さんの優しさに触れて、帰国する頃には自分が1番元気を貰っていました。皆さんとお会いできなくなること、カオハガン島を離れるのがとても寂しかったです。

初めてお会いする方々と初めてのボランティア、初めて一人で行く海外、行きの飛行機では不安もありましたが素敵なメンバーと島民の皆さまのお陰で笑顔の絶えない本当に素敵な5日間となりました。ありがとうございました。



丸山 麻耶（歯科衛生士）



初めての海外ボランティア活動で、島に着くまでは本当に緊張していて、不安でいっぱいでした。ですが、夜が明けて、キラキラ輝く太陽や空や海に迎えられ、すっかり気持ちが解き放たれました。

上手く出来なかったことは沢山ありましたが、出来たこともあり、全てが学びでした。

小学校での保健指導と最終日の運動会は特に楽しかったです。子供たちのキラキラした笑顔は忘れられません。

素直でまっすぐ。気持ちに正直でいれば、お互いに繋がる事が出来るんだと感じました。

毎日があっという間に過ぎてしまい、帰国してしまうのが名残惜しかったです。今回体験させていただいたことは、私の人生の財産です。

JDM の方々、メンバーの皆さま、現地スタッフのみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました！

Diana Hsieh (歯科医師)

私は今後周りの人にこのボランティア活動を勧め続けます。必ず予想以上の経験をして心が幸せいっぱいになって帰国すると思います。ボランティア未経験の方はより一層体験した方がいいです。自分はインターネットでボランティア活動を検索しましたが、なかなか私の理想に合うのが見つからないなと思っていた時に JDM のホームページを見つけました。今になって思い出すとあの時応募してよかったと思います。

なんだかんだ言って一番心に残っているのは子供達の透き通った笑顔です。島の人たちの治療をしに人助けにきたと思っていた私は逆にその方々に私の心を幸せでいっぱいにさせてもらいました。もう感動の毎日です。私の名前も知らない、スキルが良いのかもわからないのに信じて頂いて、治療に来てくれて本当にありがとうと感じるばかりです。恥ずかしながら、私自身が救われた感覚です。人助けは他人の為のように見えて本当は助ける側がさらに心を満たされます。また行きたいです。

そのほかに、現地の人は現地の言葉だけ話す方もいますが子供でも少しだけ英語を話します。自分の英語が現場で役に立ったと実感することができました。なので、英語を使ってボランティアしたい方にも向いていると思います。さらに私は今回が初のフィリピンでもあったので、何か目的を持って旅行をする派の私にとって最適なプランでした。また最終日の運動会も子供達と一緒にしました。子供達は JDM にとっても懐いているので有難くすぐに仲良くなれます。もちろん JDM メンバーも素敵な人ばかりです。どうの昔にこの活動を一緒にすると決まっていたかのように思えたくらいです。



最後に、この職業を選んでいて良かったと心から思います。他人が困っている時に手を述べられることが出来る、誰かの役に立っていると感じることはとても恵まれていると私は思います。感謝されることに感謝したいと思うほど素晴らしい日々を過ごしました。このような機会を提供していただいた JDM の皆様に心から感謝の言葉を存じ上げます。

嶋村 寿美江(歯科衛生士)

歯科衛生士の仕事をどう続けていこうか悩んでいた時に、無償医療のボランティアを続けておられる眼科医の方の話を聞く機会がありました。海外ボランティアに興味があった事も重なって、歯科衛生士の資格を活かして私も出来ることはないかと検索して出逢ったのが JDM でした。

カオハガン島では、クリーニングやシーラント、アシスタントをしながら沢山の口腔内を診させてもらいました。

なかでも印象に残っているのが 17 歳の女の子のクリーニングをさせてもらった事です。

彼女は笑顔がとてもチャーミングで口腔内もカリエスは無く、第一大臼歯も綺麗な状態でブラッシングもしっかりされました。

すごい！と思いながらも、彼女の口腔内が綺麗に守られてるのは、これまでに JDM で活動されてきた方々の努力と指導の賜



活動ができた事に感謝しております。ありがとうございました。

野間 貴裕（歯科医師）

私は、JDM の活動に参加させていただくことは今回が初めてでした。今まで私は、このようなボランティア活動自体に参加したこと自体がありませんでした。そんな私が今回参加を決めたのは、以前参加したことのある先生から JDM の活動の話を聞き興味を持ったことが始まりでした。

今回の活動に参加するまでカオハガンという島の名さえも初耳の状態でしたので、出発前の私は緊張していました。自分に治療ができるのか、どのような環境下、どのような人たちがいるのか、不安の種は尽きませんでした。

初日、関西国際空港からセブ島を経由し船でカオハガン島に着いた時は夜で、ロッジ以外に明かりがなく周囲の様子はまるで分かりませんでした。その日は食事をした後にミーティングをし、就寝となりました。

2 日目から4 日目の午前中にかけては、予定通り、皆で歯科治療を行っていきました。

島中から訪れたのか、今までに経験したことがないほどに次から次へと患者さんが来られました。

しかし、以前参加された先生方によるとそれでもまだ少なかったそ

物で、そこに参加できた事をとても光栄に思いました。彼女のような口腔内の子供達が増え、彼女達が親になった時、ブラッシングの大切さ、健康な口腔内の大切さを自らが子供達に教え、またその子供達が次の世代に教えて・・・と、島の方達の歯科への理解と感心が今以上に高くなって、口腔内の健康と素敵な笑顔が続いていくように微力ですが、これからも JDM の活動に参加していきたいと思います。

そして小学校でのブラッシング指導を急遽手伝っただけなのに、サプライズで子供達からの歌とダンスのプレゼントを貰った時の感動は忘れられなく、今も動画を見るたびに心が温まります。

初めてのボランティア活動で、緊張と不安が大きかったのですが、診療が終わると笑顔で「ありがとう」と言ってくださったり、ハイタッチで喜んでくださった島の方達の笑顔や、人懐っこい子供達に私のほうが癒されていて、あっという間の 5 日間を楽しく、無事に過ごす事ができました。

沢田先生が「JDM のメンバーは家族！」と仰っていましたが、また逢いたい！また一緒に活動したい！と思う素晴らしいメンバーの皆様と出逢え、一緒に



うです。どうやら今回の日程が周辺の島の祭りの日と重なっていたようで、他の島からの患者さんがあまり来られていなかったようです。

主に行った治療は抜歯とCR、その中でも抜歯は大いに心に残りました。

今までに私が日本で経験したのは、動揺度が大きいものや晩期残存の乳歯、矯正時の便宜抜歯ぐらいでした。それらに比べるとカオハガン島で経験した抜歯は、人々の歯根が日本人よりも長いのか、歯槽骨がしっかりしているためか、なかなか脱臼できずに時間がかかることも途中で他の先生に助けを求めることもありました。

その度に痛感したのは自分の未熟さと、それでも笑ってくれる島民の方々のありがたさでした。

機会があるのならば、もっとスムーズに抜歯できるようになりたいと思いました。

治療関連が終わった四日目の午後は、自由時間となり、その後は島民の子供たちと運動会を行いました。

自由時間は、沢田先生たちと海へ出てダイビングを楽しみました。

海は綺麗で透明なのは勿論ですが、海藻や泳いでいる魚など日本の海とは違う光景でした。

運動会ではリレーやビーチフラッグ、綱引き、玉入れ、騎馬戦などが行われました。皆元気いっぱい動き微笑ましかったのですが、玉入れの球がうまく籠に入れずに流れ玉が籠を持っていた私たちに当たったのはご愛敬でしょう。

この日が最終日でしたので、夕食後に荷物をまとめ深夜、帰路につきました。

今回、私は活動に参加することはもとよりフィリピン方面に来ること自体が初めてでしたので、治療だけでなく、カオハガン島で見るもの触れるものすべてが見覚えの無い新鮮なものでした。それを不安に思うこともありましたが、子供たちが屈託のない笑顔で近寄ってきてくれ、治療後の患者さんたちも笑顔で応えてくれました。

まだ未熟な自分ですがそのような島民の方々には、次の機会には、治療をスムーズに行えるようにしたいです。

今回は、参加させていただきましてありがとうございました。

西田 望(歯科衛生士)

今回、初めて JDM に参加させていただきました。

ボランティア自体が初めてでしたので、私が現地の人々に本当に貢献出来るのか、また、JDM メンバーの中でも最年少だったので、不安がありました。

実際にカオハガン島の方達の口腔内をみた時は大人も子供も今まで見た事がないような口腔内が多く、とても衝撃を受けました。主に私はクリーニングとEXT のアシストをさせてもらう事が多かったです。1 番心がけていた事が、声がけをしながら手を握ったり、肩を摩ったりする事で少しでも安心を与える事でした。治療を受けているときは皆さん辛そうな顔や泣いてる子供も多かったですが、治療が終わると笑顔に戻って、それを見ているこっちが嬉しくなりました！

限られた材料や器具を使い、人々を笑顔にさせるボランティアは本当にすごいなと思いました。

また、当たり前のように電気や水道を使い、機械も回っている環境が慣れてしまっていたので、普段の診療をありがたく思う事ができました。

カオハガン島の人々は本当に温かく、今でも私の中で忘れられない経験となりました。JDM メンバーの方たちもフレンドリーでとても優しく接していただき、楽しいボランティア生活を過ごす事が出来ました！

沢田先生をはじめ、JDM メンバーの皆さんやカオハガン島の人々にとても感謝しています！

ありがとうございました！



志水 宏光（歯科医師）

カオハガン島での生活は、電子機器が当たり前前の日常を忘れて自然を間近に感じながら過ごすことのできる貴重な時間でした。

島民の方々の歯科治療やエネルギーあふれる子供達との交流が出来ただけでなく、高い志をもっておられる参加者の皆さまと知り合うことができ、自分の視野を大いに広げることができました。初めての海外ボランティア参加でしたが、澤田先生をはじめとするJDMの皆様サポートのおかげで、非常に実りの多い経験となりました。参加させていただいて本当に良かったです。今後もいろいろな活動に積極的に参加していきたいと思います。

今後、また皆様にお会いできる機会を楽しみにしております。
ありがとうございました。



母安 秀樹（歯科医師）



これまでベトナムでの海外ボランティアには多数参加してきましたが、今回初めてJDMさんのフィリピンボランティアに参加させていただきました。海外ボランティアという点は共通しているものの、これまでの経験とはまた違った環境であり非常に新鮮でした。団長を務める沢田先生の熱意に感銘を受けるばかりでなく、意欲にあふれる皆様のエネルギーに触れることができ大変有意義なボランティア活動となりました。

JDM様の益々のご発展と皆様の今後のご活躍を祈っています。
この度の機会に心より感謝申し上げます。

2020年度 海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっております。現地でのお仕事（活動）は、医療活動に限らず多種多様ですので、どなた様でもご参加可能です。

皆様のご参加をお待ちしております。

参加申し込みは当会ウェブサイトからお願いします。

<http://www.japandentalmission.org>

バヌアツ共和国

新型コロナウイルスの影響で国が閉鎖されているため、今年の活動は中止です。

フィリピン共和国

チーム名	日 程	締切日
11月カオハガン島	2020年11月21日～25日	2020年10月8日
3月カオハガン島	2021年3月17日～22日	2021年1月27日

*状況により予定は変更します。

参加費用

バヌアツ共和国

フィリピン共和国

科 目	金 額	金 額
航空運賃*1	約25万円	約8万円
滞在費	現地宿泊費、食費等	
海外旅行傷害保険代	希望者のみ各自負担	
ユニフォーム代*2	3千円	3千円
合 計	約26万円	約9万円

*1：航空運賃は、時期により変動します

*2：持っていない方のみ

ジャパン デンタル ミッションについて

Year	沿 革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてバヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に“バヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、バヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらう事になり、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
	バヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン デンタル ミッション」に変更
2004	バヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
	現在に至る

ジャパン デンタル ミッション活動方針

1. 歯科医療活動

●バヌアツ共和国における歯科医療活動

ペンテコスト島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。

また、病院の周辺の小・中学校に行き、歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

●フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。

島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い、歯の磨き方を指導しています。

2. 文化交流活動

●絵画などの交換

バヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行っています。

また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とバヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。

その他、日本の伝統的文化を基に交流を行っています。

3. 生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

●文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えています。

●運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

4. 青少年育成

精神的に問題を抱えた人達に海外活動に参加してもらい、生きることへの活力を養うためのキッカケ作りをするお手伝いをしています。

協力者名簿

- ・ 青木林業
- ・ (株)アド・ダイセン
- ・ アベ・ラベリング
- ・ 大阪歯科大学
- ・ 大阪市立開平小学校
- ・ 大阪市立昭和中学校
- ・ 大阪市立高津小学校
- ・ 大阪市立玉造小学校
- ・ 大阪市立中央小学校
- ・ 大阪市立中大江小学校
- ・ 大阪市立南大江小学校
- ・ 大阪市立南小学校
- ・ 大阪船場ロータリークラブ
- ・ (社) 大阪南太平洋協会
- ・ 大阪府歯科医師会
- ・ 尾崎歯材(株)
- ・ 川西市歯科医師会
- ・ 関西国際交流団体
- ・ 関西学院中学部
- ・ 北野商店(株)
- ・ 牛乳石嶺共進社(株)
- ・ 清原(株)
- ・ クリエイト(株)
- ・ グラクソ・スミスクライン(株)
- ・ 国際ソロブチミスト大阪-梅田
- ・ コクヨ S&T(株)
- ・ サクラクレパス
- ・ 沢井製薬(株)
- ・ 沢田歯科
- ・ サンスター(株)
- ・ (株)システムつう
- ・ デンタルプロ(株)
- ・ シンク(株)
- ・ 甚田会計事務所
- ・ スポーツネットワークジャパン
- ・ 住之江歯科医師会
- ・ スモカ歯磨(株)
- ・ セイコーエプソン(株)
- ・ セキセイ(株)
- ・ 全日本ブラシ工業協同組合
- ・ 曽和繊維工業(株)
- ・ 大日本除虫菊(株)
- ・ 大平工業(株)
- ・ 太洋旅行(株)
- ・ 嶽北歯科
- ・ タナベスポーツ(株)
- ・ つるや(株)
- ・ トキワ(株)
- ・ 有限会社トリビ
- ・ ナカガワ(株)
- ・ 南総工業(株)
- ・ 西澤歯科医院
- ・ ニッタハウス(株)
- ・ 日本歯科医師会生涯研究課
- ・ 根来(株)
- ・ 白水貿易(株)
- ・ ハグルマ封筒(株)
- ・ (有)ハマダデンタルサプライ
- ・ (株)林
- ・ 樋口材木店(株)
- ・ 樋口歯科医院
- ・ 平田歯科医院
- ・ 不二印刷(株)
- ・ ベリテック・アイコニックス・ベンチャーズ(株)
- ・ 蛍印刷(株)
- ・ モリタ(株)
- ・ 八尾市立西山本小学校
- ・ 八尾ロータリークラブ
- ・ 矢田化学(株)
- ・ 八千代オート(株)
- ・ 山貴産業(株)
- ・ 山本歯科商店
- ・ ユー・エフ・オー(株)
- ・ 陽春園(株)
- ・ 吉竹歯科医院
- ・ DENTRADE
- ・ Greenpath Corporation
- ・ JICAバスアツ支所
- ・ NPOセンター
- ・ TKX(株)
- ・ UHA味覚糖(株)
- ・ 共栄社化学(株)

本年度ご寄付を頂いた皆様(敬称略)

- ・青田 朝代
- ・有友 悦子
- ・大阪船場ロータリークラブ
- ・大西 富子
- ・斧原 周子
- ・片岡 清夫
- ・金本 裕光
- ・川田 修弘
- ・河内 光明
- ・北川 譲児
- ・上月 環
- ・コグレ メグミ
- ・小島 常男
- ・佐藤 道子
- ・澤田歯科
- ・菅沼 幸夫
- ・菅原 正之
- ・田中 輝男
- ・中原 道朗
- ・西 京子
- ・西村 文延
- ・藤井 純一郎
- ・古森 淳一
- ・松本 義昭
- ・守下 雅美
- ・山内 昌司
- ・山川 良知
- ・吉竹 弘行
- ・私立立教女学院
- ・童 明男

役員紹介

代表理事

沢田 宗久 澤田歯科（歯科医師）

副代表理事

栗山 雅行 ベリテック・アイニックス・ベンチャーズ[®]（株）（ボランティア）

理 事

河内 光明 澤田歯科（歯科技工士）

上崎 秀美 （歯科医師）

田中 良明 上り口歯科医院（歯科技工士）

吉井 照子 （ボランティア）

富田 真仁 富田まひと歯科（歯科医師）

倉橋 朋子 塩井歯科医院（歯科衛生士）

関根 淳 関根歯科医院（歯科医師）

伊藤 玲 あきら歯科（歯科医師）

監 事

甚田 隆康 甚田総合会計事務所（ボランティア）

北野 克己 株式会社北野商店（ボランティア）



2020年6月20日発行 発行者：NPO 法人ジャパン デンタル ミッション

〒542-0085 大阪府中央区心斎橋筋 1-5-28 心斎橋コアビル 澤田歯科内

TEL : 06-6252-0118

URL : <http://www.japandentalmission.org> E-mail : info@japandentalmission.org

*本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを強く禁じます。

フィリピン カオハガン島